

1. ロシアのユダヤ機関閉鎖危機を覚えて

第二次世界大戦後、ソ連と東ヨーロッパ諸国は、社会主義政権の下、西側諸国に対して厳しく門戸を閉ざし、人々の往来も制限されていました。この閉鎖的外交は「鉄のカーテン」と呼ばれ、東西冷戦の象徴です。鉄のカーテンの中、ユダヤ人たちはイスラエル帰還がほとんど許されませんでした。出国ビザを申請するユダヤ人は裏切り者とされ、職を奪われ、迫害されました。しかし1991年ソ連は崩壊、鉄のカーテンが開いてユダヤ人は大挙して帰還を果たしたのです。

しかし、再び鉄のカーテンが閉まる危機が迫っています。ロシア司法省が国内のユダヤ機関が違法行為を行っているとして、閉鎖を求める訴訟を起こしたのです。ユダヤ機関はイスラエル政府と連携して、世界中のユダヤ人のイスラエル帰還を担う最大のユダヤ人団体です。閉鎖が現実となれば、ロシアのユダヤ人たちは帰還が非常に難しくなります。そして、ロシア国内に残されたユダヤ人への迫害が激しくなることは容易に予想されます。7月1日、イスラエルは首相が交替。ラピード氏が首相に就任した矢先でした。イスラエルは歴史的にロシアと関係が深く、これまで

ロシアと良好な外交関係を保ってきました。ウクライナには人道支援に徹し、積極的なロシア批判は避け、中立を守ってきました。しかしロシア批判を強めていたラピード氏が首相となり、ロシアの態度は一変しました。またウクライナ侵攻以降、多くのユダヤ人がロシアからイスラエルに渡っています。その数はウクライナからの避難民を超えます。この流出もロシアの懸念となっています。現在、ロシアに暮らすユダヤ人は16万人以上。「彼らが人質となつてはならない」という声もイスラエル政府内に上がっています。

現在、ユダヤ機関は業務を継続中ですが、既に移住が困難となっています。そして8月19日の裁判で、重大な決断がされる可能性があります。第二次世界大戦中、ユダヤ人は「まだ大丈夫」と脱出を躊躇している間に、逃げ遅れてホロコーストの犠牲となりました。2022年、私たちは一日にして世界が急変する出来事を目の当たりにしてきました。鉄のカーテンが下りる前に一人でも多くのユダヤ人の帰還がかなうよう祈りを捧げましょう。

わたしは、北に向かって『引き渡せ。』と言い、南に向かって『引き止めるな。』と言う。

わたしの子らを遠くから来させ、わたしの娘らを地の果てから来させよ。(イザヤ43:6)新改訳第3版

- ①ロシアのユダヤ人たちに一刻も早く帰還の決断が与えられるように。また、残る人々が反ユダヤ主義から守られるように。
- ②ロシアと交渉するイスラエル政府に天からの知恵が与えられるように。
- ③聖書に記された神の命令であるユダヤ人のイスラエル帰還を阻む力がとどめられるように。

2. 難題に取り組む日本の政治家を覚えて

7月8日、遊説中に安倍元首相が凶弾に倒れるという痛ましい事件が起き、国内外に激震が走りました。事件を受け、キリスト教有志たちが緊急の祈り会を開催。国政のために祈りを捧げ、今後も祈り続けていく決意を新たにしました。

日本の議員の多くはキリスト教ではありません。しかし、パウロは、すべての指導者のために祈るよう勧めました。当時、イスラエルを治めていたのは過酷なローマ帝国です。そのトップに君臨する皇帝ネロ

は、キリスト教を激しく迫害し、パウロはこの時代に殉教を遂げています。

そんな指導者たちのために祈る理由は、神が「すべての人が救われて、真理を知るようになることを望んで」おられるからです。また、私たちが「平安で落ち着いた生活を送るため」にも、指導者のために祈ることが大切になってきます。

激動の時代を迎え、平安な生活を脅かす数々の難題が目の前にあります。そんな難題に、多くの犠牲を払って取り組む政治家のために祈ってまいりましょう。

そこで、私は何よりもまず勧めます。すべての人のために、王たちと高い地位にあるすべての人のために
願ひ、祈り、とりなし、感謝をささげなさい。(イテモテ2:1)

- ①議員一人ひとりに天からの知恵が与えられ、日本に神の御心になるように。
- ②議員たちが、偽りの神々ではなく真の神を知り、救いにあずかることができるように。
- ③クリスチャンが一致して政治家のために祈り、とりなし、感謝を捧げられるように。

3. ウクライナからの新移民への支援を覚えて


BFPとユダヤ人団体「ヤド・ラオリム」との新しい協力関係が始まりました。ウクライナから到着した方々は、ほとんど何も持たずにイスラエルに避難しています、そんな方々のために、エルサレムのショッピングモールに生活必需品を支給するセンターを開設し、生活再建を応援しています。



Screenshot from YouTube video "Rebuilding Shattered Lives" Bridges For Peace
BFPIは ヤド・ラオリム(ユダヤ人団体)が開設した避難民物資センターを支援

今回、特に困難な家庭に特別支援をすることになりました。激戦地マリウポリから生還したナタリアさん家族です。戦争開始から数日後、銃声と爆音と共に家中のガラスが吹き飛び、ロシア兵が家に入ってきました。そして兵士が2人の息子の頭に拳銃を突きつけたのです。奇跡的にロシア兵は息子たちに危害を加えずに立ち去りました。しかしその夜からナタリアさんは、PTSDを発症し体が動かなくなりました。そして夫を残し、数千キロを渡ってイスラエルに到着しました。この家族への特別支援に日本からの支援が用いられることになりました。

映像はこちら ▶▶▶

 <https://youtu.be/UDlrksYUPyU>



慰めよ、慰めよ、わたしの民を。——あなたがたの神は仰せられる—— (イザヤ40:1)

- ①ウクライナから帰還した方々が、イスラエルで、主の安息の中で心身が癒やされ、生活再建の道が備えられるように。
- ②ウクライナ危機に際して祈りと支援を捧げられたお一人おひとりに、主が大いなる祝福をもって報いてくださるように。
- ③大挙して帰還民が到着する時代にあって、BFPIに主からの知恵が与えられ、使命を全うできるように。

緊急の祈禱課題(8月8日現在) テロ組織との戦闘を覚えて

イスラエルは8月5日から、ガザ地区のテロ組織・イスラム聖戦と一時激しい戦闘状態となり、7日夜に停戦合意となりました。66時間の戦闘で、ガザ地区からイスラエルに向けて、1100発以上のロケット弾が無差別に発射されましたが、イスラエル軍の高精度の迎撃システムで撃墜され、イスラエルの人々の命は守られました。一方、イスラエル軍はイスラム聖戦の拠点をピンポイントに攻撃しましたが、イスラム聖戦発射のロケット弾の20%はガザ地区に落下、ガザ地区では44名が死亡しました。

イスラム聖戦は、イランが支援するガザ地区第2のテロ組織です。この夏イスラエルへの大規模テロを計画しているという情報をイスラエル軍が入手、イスラム聖戦の幹部を逮捕したことから戦闘が激化しました。イスラエルは、テロ組織やテロ支援国家に囲まれて戦闘に備え続けなければなりません。また犠牲となるのは、テロ組織の悪政下にいるガザ市民です。イスラエルを攻撃しようとする人々の心に主が触れてくださるよう、イスラエルの平和のためにお祈りをお願いします。



特定非営利活動法人

B.F.P. Japan(ブリッジス・フォー・ピース)

〒182-0001 東京都調布市緑ヶ丘2-40-22 TEL:03-5969-9656 FAX:03-5969-9657 URL: www.bfpj.org

ハインイトに関するお問い合わせ: chainight@bfpj.org

ハインイトソングのダウンロードはこちら ▶▶▶

 <https://www.bfpj.org/music/>

